

『もりおかの短歌』秋の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

サラサラと落おつる落おち葉ぼに

啄たく木の声こえが聴きこえた

望ぼう郷きょうの丘おか

盛岡市 河野 康夫

光ひかりさす

南なん昌しょう荘そうの床ゆかもみじ

遊あそびこいる子うたの歌うたを映うつして

秋田県大仙市 鈴木 仁

渋しぶ民たみの地ちより仰あふぎし岩いわ手て山さん

かくありたきと

願ねがひて生いくる

青森県青森市 鈴木 操

もりおかの

あき まつり たいこ ね
秋の祭の太鼓の音

いわやま かす とど
岩山にまで微かに届く

盛岡市 鈴木 充

しろ くさふ
城あとの草生に

しょうねんたくぼく みあ
少年啄木とわれとが見上ぐる

もりおか そら
盛岡の空

神奈川県川崎市 須永 由紀子

きょうどしよく めん しょく
郷土食とふじゃじゃ麺を食さむと

しろちか みせ
城近き店の

ぎょうれつ な
行列に並む

奈良県奈良市 永井 初子

こずかた しろ と
不来方の城を訪ひきて

かひ あ
歌碑に会ふ

じゅうび こころ あおぞらあお
十五の心に青空仰ぐ

奈良県奈良市 永井 初子

もりおかで

行き交ひし人のぬくもりに

いにしへよりの心身にしむ

鳥取県西伯郡 永見 邦子

啄木の故郷行けば

思い出の山高くして

稲穂波打つ

盛岡市 西川 政勝

啄木のゆかりの街を

歩みゆき旅のをはりに

鉄瓶を買ふ

奈良県奈良市 和田 康

『もりおかの短歌』秋の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞

(応募時、中学生以下に限る)

は お あき ゆうひ
葉が落ちて秋の夕日に

た あか そ
そびえ立つ紅に染まった

もりおかじょう

盛岡城あと

盛岡市 菅原 優理(十一歳)

【講評】

ジュニアの部に8首、一般の部に99首の応募がありました。短歌でなく俳句であったり、短歌の基本を大きく逸脱した作品も多々ありました。一般の部の方々は、啄木や盛岡城跡公園、中津川、岩手山以外を詠んだものが多くあり、選歌する自分自身も盛岡の街をもっと歩いてみなければと思わせてくれました。

令和五年十二月選 秋の部

投稿数 百七首

選者 山本 豊